

☆ 第4回 俳句大学三賞発表 ☆

治医科大学名誉教授)、五島高資、永田満徳

【第4回 俳句大学大賞】

篠崎央子『火の貌』

(ふらんす堂) 令和2年8月

※全般的に俳句的な目が確かで、血族や血に関する民俗学的、神話的な世界をベースに、スケールが大きく、大胆で、自在な発想が魅力である。眩しすぎるほどの発想は天性のものであると言つてよく、しかも、俳味があつて、読み応えのある句が揃う。(永田満徳)

【第4回 俳句大学大賞准賞】

川越歌澄『キリンは森へ』

(俳句アトラス) 令和2年6月

※ 文學の森主催の第1回「北斗賞」の選考委員として、川越歌澄を「俳句の骨法をきちんと踏まえた上で決して気負わず、しかも独自の世界が展開されている。」として強く推薦した。今回の『キリンは森へ』では、川越歌澄という個人的、さらには集合的無意識を介して、高い詩境の展開を見せている。(五島高資)

選考委員… 岡田耕治 (大阪教育大学特任教授・「香天」代表)、木暮陶句郎 (「ひろそ火」主宰)、五島高資 (俳句大学副学長)、斎藤信義 (「俳句寺子屋」主宰)、仲寒蟬 (「牧」代表)、永田満徳 (俳句大学学長)

【第4回 俳句大学新人賞】

該当者なし

選考委員… 大高翔 (「藍花」副主宰)、五島高資、仙田洋子 (「天為」同人)、辻村麻乃 (「篠」主宰)、永田満徳、松野苑子 (「街」同人会長)

【第4回 俳句大学評論賞】

該当者なし

【第4回 俳句大学評論特別賞】

[国際部門]

Aniko Papp

【季語の研究】「風」の名前に季節感

※ 「俳句大学評論賞」に毎回応募し、その熱心さには脱帽に価する。受賞作品は、ハンガリー在住ながら、日本の春夏秋冬の季語を例に挙げながら、季節によって表現の仕方が変わっていくこと、また、例えば「風」でも、それぞれの季節によって、「風」の印象が違い、季節の特色があることを究明しているところが評価できる。(永田満徳)

選考委員… 井上泰至 (防衛大学校教授)、加藤直克 (自

【選考資料】

【第5回俳句大学大賞候補】

【岡田耕治】

渡辺誠一郎『赫赫』(深夜叢書社) 令和2年10月
「ふくしまの大根一本ふりまわす」

など、静謐な秀句が収められている。

田 彰子『田さん』(ふらんす堂) 令和2年7月

「旅に出てザボンのように眠りたし」

など、独自の境地を切り開いた。

豊里友行『宇宙の音符』(沖繩書房) 令和2年9月

「オリオンの火種をもらうウイルスよ」

など、現実を捉える大きな眼差しが光る句集。

【木暮陶句郎】

藤本美和子『冬泉』(角川書店) 令和2年9月

名取里美『森の螢』(角川書店) 令和2年11月

篠崎央子『火の貌』(ふらんす堂) 令和2年8月

【五島高資】

鴛田智哉『エレメンツ』(素粒社) 令和2年11月

朝吹英和『光陰の矢』(ふらんす堂) 令和2年11月

川越歌澄『キリンは森へ』(俳句アトラス) 令和2年6月

【斎藤信義】

小池康生『奎星』(飯塚書店刊) 令和2年10月

川越歌澄『キリンは森へ』(俳句アトラス) 令和2年6月

菅敦『仮寓』(書肆アルス) 令和2年8月

【仲寒蟬】

太田うさぎ『また明日』(左右社) 令和2年5月

篠崎央子『火の貌』(ふらんす堂) 令和2年8月

【永田満徳】

篠崎央子『火の貌』(ふらんす堂) 令和2年8月

三島広志『天職』(角川書店) 令和2年2月

青島玄武『優しき樹』(文學の森) 令和2年3月